

イタリア人向けの和伊辞典編纂における BCCWJ の貢献

カルヴェッティ・パオロ (カ・フォスカリ ヴェネツィア大学)

The Contribution of BCCWJ in the Editing of a Japanese-Italian Dictionary for Italian Readers

Paolo Calvetti (Dept. of Asian and North African Studies - Ca' Foscari University Venice)

0. はじめに

1990年ローマにある国立アジア・アフリカ研究所(当時名称:中近東・東アジア研究所)とナポリ大学「オリエンターレ」(当時名称:国立ナポリ東洋大学)の共同研究のもとで「和伊辞典」編纂計画が発足したが、その実現は今日に至るまで難航してきた。20年も経っているが、辞典の発行はまだ遠いようで、経済的な理由などでその確かな見通しはまだ立っていない。しかし、イタリアで日本語を勉強している学生の人数の増加が著しく、日本語を仕事で使う人の数は無視できないものであるため、イタリア人向けの和伊辞典の必要性が痛感されている。とは言え、困難な研究環境の中で、その計画の実現に向かい編集作業を続けている少数人のチームがある。7万語程度の見出し語、用例の豊富な辞典を目指し、今まで出版された和伊辞典と比べれば(本稿の最後の付録を参照されたい)「大」辞典を編集しようとしている。¹

1. 和伊・伊和对訳辞典の現状

歴史的な背景や出版界の事情の相違により和伊・伊和对訳辞典編纂の業績と歴史はイタリアと日本とはかなり違う。本題から脱線してしまう危険があるので、ここではその詳細は省略するが、結論から言うと日本人の辞書編纂研究者の業績の方が多く、商業出版社との関わり合いも刺激的であると思われ、その結果「使える」辞書が編集され、市販されているのである。電子辞書の普及につれても、その本体に搭載されている機種もあれば、フラッシュカードの形で伊和・和伊のバージョンも入手できる。イタリア人の学生もそのようなものを実際には利用している。

さて、イタリアの辞書編纂を歴史的に振り返る意味でも、明治時代から出版された和伊・伊和辞典のリストをまとめてみると、次のようなことになる。

日本で編集された辞典

- 1876 曲木如長 『仏伊和三国通語』 續文社
- 1936 井上静一 『伊太利語辞典』 第一書房 (増訂版 1942)
- 1938 吉田弥邦 藤堂高紹 『伊日辞典』 伊日辞典刊行会
- 1963 下位英一 坂本鉄男 『イタリア語小辞典』 大学書林
- 1964 野上素一 『新伊和辞典』 白水社 (増訂版 1981)
- 1982 武田正實 『現代和伊熟語辞典』 日外アソシエーツ
- 1982/1998 高橋久 『和伊辞典』 イタリア書房 (ポケット版 1998)
- 1983 池田康, 他 『伊和中辞典』 小学館 (第2版 1999)

¹ Paolo Calvetti, "Perché un nuovo dizionario Giapponese-Italiano", Luisa Bienati, Matilde Mastrangelo 編, *Un'isola in Levante. Saggi sul Giappone in onore di Adriana Boscaro* 所載, 2010, Napoli, ScriptaWeb 出版社, pp. 389-403.

- 1987 下位英一 『和伊辞典』 大学書林
- 1988 坂本鉄男 『和伊辞典』 白水社
- 1994 西川一郎 『和伊中辞典』 小学館 (西川一郎・和田忠彦 監修 第2版 2008)
- 2001 郡史郎, 池田康 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』 小学館

イタリアで編集された辞典

- 1910 Chimenz S., *Piccolo dizionario italiano-giapponese*, Hoepli
- 1912 Balbi B., *Piccolo vocabolario manuale italo-giapponese*, Hoepli (第2版 1939)
- 1940 Scalise G., *Dizionario Italiano-Giapponese*, Società editrice Don Bosco
- 1978 Nishikawa I., *Dizionario giapponese-italiano dei termini fondamentali*, 国際交流基金・日本文化会館
- 1992 Scalise M., Mizuguchi A., *Dizionario Giapponese. Italiano-Giapponese, Giapponese-Italiano*, Vallardi
- 2000 Kimura A., Hashigata K., *Dizionario giapponese. Giapponese-Italiano, Italiano-Giapponese*, De Agostini
- 2006 Marino S., Enomoto Y., *Dizionario giapponese-italiano, italiano-giapponese*, Zanichelli
- 2006 Borriello G., Petrella D., *Giapponese: dizionario per immagini*, Vallardi

日本語教育制度、特に大学制度によってイタリア語は、第2外国語としてしか選択されないことがあるので、ほかの外国語（中国語、韓国語、そして、英語、ドイツ語、フランス語）の対訳辞典と比べれば、出版社は商業的な発想からイタリア語辞典にはそれほど力を注いでいないようである。にもかかわらず、日本でのイタリア語関係の辞典編集の活動はイタリアと比較すれば著しいと言えよう。また、残念なことに、近年イタリアで伝統のある出版社からは発刊された辞典でさえも、ほとんど使い物にならないのが現状である。

2. イタリア人向けの日本語対訳辞典の必要性

イタリアで1980年代の後半から大学を中心に日本語教育のブームが起こり、その時まで外国としてエキゾチックなことばとされていた日本語は、数多くの学生の興味を引き、数人、数十人の学生のクラスが一気に100人台を超えることになったのである。日本語教育自体のあり方、教授法の再検討、新しいアプローチの教科書の必要などがその日本語ブームに伴って生じたわけである。

現在ヨーロッパの中で日本語の学生数で英国、フランス、ドイツに続いて4位²を占めているイタリアでは、日本語と関係のある仕事をしている人の数は不明ではあるが、翻訳、通訳、観光産業、貿易関係などに携わっている人たちはわずかながらもコンスタントに増加していると思われる。年に10冊以上の日本の小説も翻訳され、出版されている³。この

² 国際交流基金編「2009年海外日本語教育機関調査 速報値」http://www.jpj.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/news_2009_02.pdf

³ Luisa Bienati, Paola Scrolavezza 共著, “La narrativa giapponese moderna e contemporanea”, Venezia 2009によると2001年から2008年に渡って、108冊の近現代文学の小説が出版された。

ような人たちは皆、多種多様の対訳辞典に頼りながら自分の職業に携わっていると思われる。

しかしながら、イタリア人の読者、辞典の利用者のために編集された頼りになるまともな和伊辞典は存在しないと言っても過言ではない。

3. イタリア人向けの和伊辞典の特徴

上述したように現在市販されている和伊辞典の構成や目的は、イタリア語を母国語としている利用者のニーズに背反するか、あるいはそのニーズに応える資格と内容を持っていないといえる。というのは、今日本で出版された和伊辞典は主に日本人がイタリア語で表現したいときに日本語からイタリア語への、広義での翻訳の補助的な手段として工夫され、編集されたものである。対訳辞典というものは双方向的なものではなく、しかも、特定の利用者（和伊辞典の場合、日本人）のニーズに応えるために構成、編集されているのである。例えば、「試験」の項目には「試験に合格する」という用例があるとしたら、同義の「試験に受かる」、「試験に通る」などはないのに対して用例に当たるイタリア語の翻訳は三つもの文がある：「superare [passare] un esame, essere promosso agli esami; vincere un concorso」。

なお、その文法的な注釈やシンタックスの記述などはイタリア語に関するもので、見出し語の品詞や日本語そのものについては大抵の場合、何も書かれていない。これは、辞典の利用者は日本語の母語話者であることが前提となっているからであり、そのような情報を必要としていないと考えられているからである。逆に、イタリア人の日本語の学習者や仕事で（研究、翻訳等）、また、趣味で日本語を読んだり、聴解しようとしたりする人にとっては省略されているこの種の情報は欠かせないものである。もちろん、イタリア人利用者が日本人向けの和伊辞典を丁寧に読んで、用例などを厳密に調べればその大切な情報が得られることもある（事実上、選択もないため、イタリア人は日本で編集され、出版された和伊辞典を使う）が、その情報は辞典編纂計画の意図には必ずしも含まれていないし、偶然に存在していても潜在的なものにすぎない。

陳腐な例ではあるが、POS（品詞）の表記は辞典の受動的な知識獲得の役割だけでなく、その能動的な役割にも役に立つ。例えば、「感動」という見出し語を調べれば、名詞、サ変として使えることは記述されていないので、知らない読者は（その見出し語を調べた読者はその単語については知識がないはずであるが）動詞としても使えることが分からないし、せっかく以前知らなかった単語を調べたのに、その言葉についての新しい知識・情報が限られてしまい、その正しい運用もできないかもしれない。動詞の場合では動詞の自他の区別もされていないこともあって、二カ国語間の非対称性のため、対訳の文章だけでは見出し語の性格が分からない⁴。

また、用例に関して考えてみると、利用者がイタリア人なら、和伊辞典に紹介されている用例は日本語のある概念、ある表現を表すための代表性、および、模範性のある文章として見なしていると想像できる。すなわち、それぞれの用例は日本語のサンプルであり、自分が直面する文章にも表れうる一例として扱われるということである。しかし、実際には現在市販されている日本語が含まれている対訳辞典の多数には（和英、和仏などの辞典も同様であるが）、日本人向けのものであり、それぞれの起点言語（日本語）の用例文が単

⁴ 見つかる・見つける（「探し出す」の意味で）の対はそれぞれ自動詞と他動詞であるが、辞典に掲載されている用例のイタリア語の対訳ではイタリア語で他動詞の形で表れることが多い。そのため、日本語母語話者ではない利用者が翻訳からは自他の区別が分からない。

なる目標言語（和伊辞典の場合はイタリア語）において、適切に、妥当性のある表現を発せられるような手段に過ぎず、必ずしも「自然な」日本語ではない。

例えば、単文の用例に限るが、「写真」という見出し語の場合は「写真を撮る」という用例はあるが、「写真を撮す」（またはネットなどでよく使われている「写真する」）のような例はない。その理由はこの三つの表現は同義として扱われ、同じ意味を表しているので、すべて列挙する必要はなく、逆に唯一の「写真を撮る」という用例に、目標言語であるイタリア語の三つもの異なる表現が記載され、文字通りの翻訳も注釈の形で付き加えられている「fare una fotografia, fotografare; scattare una fotografia（シャッターを切る）」⁵。

言い換えれば、用例の文は日本人にとってはイタリア語の文へのただの導入であるが、イタリア人はその同じ文を日本語の一つの代表的、模範的な文章として扱い、そして、それに対するイタリア語の文を翻訳として解釈しがちである。

また、日本の場合に限らないが、調べれば、違う出版社、違う編集者の同類の対訳辞典、または、同じ出版社の違う対訳辞典（和伊、和英、和西など）に掲載されている用例はよく似ている、場合によっては同一であることが分かる場合も存在する。それは、今述べたように、日本語の用例は実際使用された文のサンプリングではなく、抽象的で出版社の辞書編集部を用意されている「用例レポトリ」のようなものから選ばれるためである。

さらに、非日本語母語話者が対訳辞典を利用する際、無視できないもう一つの重要な点がある。それは言語位相である。言うまでもなく、そのようなことも日本人向けの対訳辞典は配慮しておらず、「亡くなる」「死ぬ」「死亡する」「死去する」「くたばる」などは大抵目標言語に同じ対訳があり、たまには日本人の読者のためを考えて、対訳語の言語位相に関しての注釈があるだけである。これも辞典利用者からすると対象言語の解釈（理解・翻訳）のためだけでなく、言語運用、発話のためにも大切な要素であり、発話のフィードバックの重要な情報でもある。

もう一つ、対訳辞典は模範的、規範的な役割も担っていると考えられるので、日本語の場合はその正書法、特に漢字表記の変種に関しても非日本語母語話者にこれらに関する示唆を提供するのが妥当と思われる。対訳辞典だけでなく、国語辞典にも類義・同音語の表記（例えば、ワカル：「分かる」「解る」「判る」やトオル：「通る」「徹る」「透る」など）の使い分けもはっきり記述されていないこともある。漢字の伝統を強調する社会にはその情報も無視できないもう一つの要素であるといえよう。

4. 辞典編纂における『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）の可能性

国立国語研究所の協力、および、提供をいただき、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）を実験的に『和伊大辞典』の編纂に使い始めた。用例収集が最初の目的であったが、共起関係・コロケーションの観察や分析も編纂の作業に大いに役立つと分かり、言語位相の区別なども大量コーパスのおかげで辞典の計画において指摘した特徴に合った答えも見つけることができた。

3. で述べたように対訳辞典の編纂に必要とされているいくつかの点について BCCWJ の貢献を以下に取り上げてみたいと思う。

⁵ 西川一郎編集・和田和彦監修『小学館和伊中辞典』, 東京, 小学館, 2008 年第 2 版.

4. 1.

『和伊大辞典』に収録されるべき日本語の見出し語とそれと関連する用例、つまり、辞典に収録したい「日本語」は厳密に定義されていないが、漠然として「現代の一般の日本人が日常使う（読む・書く・聞く・話す）時に必要とする日本語」とする。もちろんその「一般の日本人」の像はあまりにも不確定でもあるし、同じ「日本人」でも場合によって新聞をただ読むこともあれば、仕事で専門的な（その分野に関わっている話者でなければ理解しがたい程度の）文章を書くこともある。実用的に、かつ、具体的に言えば、読者・利用者の視点から考えるとこの辞典には極端なサブジャンルや極端な専門用語を除いて、日本語を理解したいときに読解・聴解の有効な手段になりうる「日本語の代表性を有する言語」を収集したいと思う。現代日本語に限るので、一世代、Rey-Debove氏が言うように語彙の分野で60年間程度使用されたことばを収録しておきたいと思う⁶。しかし、廃語でも現代で歴史用語として、あるいは、文学の作品で使われている文語的な語彙も収録し、発話に利用されていないが文章の引用で登場するような単語も辞典に載せる予定である。

そのような前提のもとで BCCWJ の構成を考えて（その均衡と代表性については既にいろいろ議論されてきたが⁷）、従来の対訳辞典に収集されている用例と比較すれば辞書編纂（特に対訳辞典）の水準を相当に上昇させると思う。

まず、De Mauro氏が言う「lingua dell'uso」（（実際）使用言語）がサンプリングの形で提供されているに違いない⁸。その構成には任意的、主観的な選択も行われている（ジャンルの割合、収集されていないジャンル、等）と指摘されるかもしれないが、辞典編集の具体的な作業の中では、見出し語に関連する BCCWJ より得られる用例は多様なコンテストによるものであることによって、見出し語として収録されている単語の意味範囲をほとんど網羅している。辞典の用例として適切でない文（長すぎる、前後関係がなければ完成文でも意味が分かりにくい、事実の背景を知らなければ意味が通じない、など）もあるが、それは「自然言語」と「見本言語」との差の問題である。従って、編集の際、用例の再編集（長さ、従属節の多い複文などの調整）が必要になってくるが、現在の段階では、多くの場合では BCCWJ で用例の収集がそれぞれの項目を完成させている。

コーパス言語学の視点から言えば、BCCWJ に基づくことによって、伝統的な辞書編纂学と違って、辞典に収録したい単語の意味を抽象的に抽出しないで、むしろそれを様々な文脈・場面（コ・テキスト、コンテキスト）で分析が可能になり、その意味を釈義的（パラフレーズ的）に解釈し、その目標言語に違った形での釈義（翻訳）も与えることができる。しかも、「中納言」のソフトで（特にそのためだけに開発されているわけでもないが）コーパスから得られる文章をただの例文としてではなく、その中から探し出す単語を体系的に考察することも出来、他の言語要素との意味関係の研究も出来ると思う⁹。

4. 2.

3. に触れたように、原則として対訳辞典には POS が記述されていないが、非日本語母語

⁶ 60年間とは「synchronie pratique」（実用的共時）の概念によるものである。Rey-Debove Josette, “Le domain du dictionnaire”, *Langages*, XIX, 1970, pp. 3-34.

⁷ 山崎誠, 「代表性を有する現代日本語書き言葉コーパスの設計」, 国立国語研究所(2006)所載, pp.63-70.

⁸ Tullio De Mauro, “Introduzione al Grande Dizionario Italiano dell’Uso”, *Grande Dizionario Italiano dell’Uso* 第一巻に所載, VII-XLII 頁, Torino, UTET 出版社 1997.

⁹ コーパス言語学と辞書編纂学との関係については Wolfgang Teubert, “Corpus Linguistics and Lexicography”, *International Journal of Corpus Linguistics*, 6 (Special Issue), 2001, pp. 125-153 を参照されたい。

話者には大切な情報である。「中納言」のようなソフトで BCCWJ を利用すると、一貫性のある POS の記述があり、辞典の編集の具体的な作業に携わっている研究員には大変ありがたい機能である。もちろん、イタリアで使われている日本語の文法用語は BCCWJ のコーパスにタグされている品詞と必ずしも一致するのではないが、その品詞の分類と名称は一定しているため、それぞれの翻訳や調整も出来るのである。一方、日本の国語辞典の品詞分類や用語にも相違がないわけでもないため、対訳辞典の編集中にその整理は必要でもあるし、目標言語との関係を考えて上で実用的な文法の記述用語を独自に使用する必要が生まれてくると思う。

4. 3.

非日本語母語話者にとっては文の統語関係、特に名詞と助詞、動詞の活用形と名詞との意味関係（連体修飾節など）、述語と助詞との関係の変種・選択などの記述は非常に大切である。対訳辞典は、言うまでもなく、文法書ではないが、提供されている用例の文についての補助的な説明がないと用例の効果自体が衰えてしまうと思われる。しかも、対訳辞典を利用する読者の一部は学習者であることを考えれば、辞典の教育的な価値も無視できないものである。というのは、教科書で習ったことと、実際には発せられる言葉とは一致しないこともあるからである。例えば、願望を表す助動詞「タイ」にかかる名詞につく助詞は教科書では規範的には「が」とされ、「を」は補助的な選択として紹介する教科書が多い。しかし、量的だけ見ても BCCWJ で前者の出現は 1471 件に対して後者は 9386 件なのである（N ガ動詞-タイ vs N ヲ動詞-タイ）。また、移動動詞（飛ぶ、歩く、走る、など）とその移動が行われている場所を表す名詞に必ず「を」という助詞が付くと言われているが、実際には意味合いによって違うようなので、大量データのコーパスを頼りにすれば、統計的にどの形の方が代表的であるかということも指摘できるし、実用的な注釈も付け加えられる。

1. じつはな、みょうなおねがいでもいりましたが、おたくのヘリコプターを、ちょっと一日、わたしどもの町の上で飛ばせていただきたいのですが。
2. ストレッチしながら草がむしれていたり、木が削れていたり、家が建っていたりした方がずっと面白い。ただただベルトコンベアの上で歩いているよりは。
3. 大きな公園で歩こう。hina を、好きなように歩かせてあげたかったので cohi の幼稚園の間に、大きな公園に行ってきました。
4. 最短の道で歩くのであれば、古代東海道の丁字路を左に曲がって、すぐ右折すると JR 吉原駅に辿り着きます。
5. 坂道で歩く速度が落ちるうえ、みんな記念撮影するので混雑もピークに達する。
6. 子供たちが歓声を上げながらその橋の上を走ったり自転車に乗ったりしていた。
7. 彼が僕の脇を擦り抜けて、パンの並んでいる棚のほうへ歩きだしたとき、僕は、白河庭園で走って逃げていったあの中年男の、身体の調子が万全ではないような、ちょっとふらつくような足取りを、そこに見たのだ。
8. ドイツで走っている車も、日本を走っているものに比べ、随分とズッシリとした走りをしている。
9. こうしてダブルオーは、人類が造った二足歩行ロボットで、初めて公の前で走っ

たロボットとなったのだ¹⁰。

量的には確かに「N ヲ ハシル」の方が「N デ ハシル」の出現より多いが、大量コーパスによる用例のより精密な選択が出来、それぞれの意味上の違いの説明も辞典の中で出来ると思われる。

なお、(試験に)「ウカル」の意味で使う移動動詞の「トオル」もその目的語に「に」という助詞が付くとされて教科書に表れる文型であるが、6人の日本語講師のネイティブに伺ったところ、その方が正しいという人が多いことが分かった¹¹。助詞を抜いてコーパスから選んだ文を提出したら、「に」を入れたがっている傾向がはっきりとあらわれたのである。しかし、その用法は現実には違うとBCCWJによる分析では立証が出来る。

また、(試験に)「受かる」と(法律を国会で)「立法させる」の意味での既述の「通る」とそれに係る名詞に付く助詞との関係をもう一つの例としてあげてみたい。

多くの対訳辞典には「試験に通る」と「国会を通る」、それぞれ「に」と「を」とにしている。しかし、下記の例はその「原則」に反しているが、6人のインフォーマントのほとんどが「原則」に従った回答を出したのである¹²。

1. 大学病院で実際に診療に当たっているのは教授や助教授ではなく、学生か卒業もない歯医者のお卵です。**国家試験を通れば**、学生でも歯科医としての資格を持っていますから、いくらでも診療できます。
2. さて、最後に、これから弁護士を目指す人にとって1番の関心事は、「司法試験に合格できるか」を除けば、「果たして自分は弁護士になってきちんと食べていけるであろうか」あるいは、「苦勞して**試験を通った**は良いが、それなりの見返りは得られるであろうか」というところであろう。
3. 労働者派遣法の改正案で日雇いは原則禁止になりそうだ。今回の案が秋の臨時**国会に通れば**日雇い労働者らは困ってしまうだろうな。
4. 今まで著作権侵害の動画と音楽をアップロードする行為が違法だったのを、それに加えてダウンロードも違法にするものです。法案はできていて、**国会に通れば**施行される見込みです。

上述の6人の日本人のインフォーマントは外国人に「正しい」日本語を教えているという強い意識もあるかもしれないが、言語の規範とその実態との相違や言語使用のヴァリエーションを考察が出来るのも大量コーパスの長所である。

このような場合には対訳辞典にその文型の変種による意味・用途の違いを指示しなければならぬと思う。コーパスによるシンタックスと意味との関わり合いの分析により辞典に載せられる言語の実用の貴重な情報も得られるのである。

上述のように対訳辞典の日本語の例文はその目標言語への誘導手段に過ぎないので一つ一つの例は十分とされているが、非日本語母語話者の読者にはたりないと思われる。日本人のインフォーマントに「通る」の例文を提供したら、「優秀な成績で司法試験を通過してき

¹⁰ 3. と 4. の文は BCCWJ 外の例です。それぞれ(<http://cohinata146.blog90.fc2.com/blog-entry-192.html>)と(<http://www7b.biglobe.ne.jp/~fujisan60679/umi01.html>)より抽出した文である。

¹¹ 「試験にトオル」(試験にウカル)と「予選をトオル」(ある段階を通過して次の段階へ進む)での「に」と「を」の出現には混交の傾向があるかもしれない。

¹² 1. と 2. には 6 人も「に」を選択し、3. と 4. に 6 人の中 5 人も「を」を選んだ。

た人が多い」のようなこの文では他の「通る」の文と違って「を」の助詞があることによって「通過」的な過程の意味合いが表れ、すなわち試験という段階を通過して、次の段階へ進むというふうな解釈が行われた。意識的に固定された「試験に」というパターンも数多くの例文を考察することによって新しい結論を生み出したのである。辞典の用例収集にも議論・討論のもう一つのヒントを与えてくれた。

最後に、言語位相のことについても簡単に述べたいと思う。あらゆる外国語に触れる際に把握しにくい要素の中で言語位相は確かにその一つである。外国語を習った人には同じ経験があると思う。初めて耳にした、目にした言葉は誰に対しても、どんな場面でも使えるか使えないかと躊躇することがある。酒場で知人から冗談交じりに言われて、記憶に残ったことばを翌日学会や改まった場で使ってみたら、横目でにらまれ「外人だから」かろうじて許された経験がない人は少ないと思う。「ご馳走になる」、「食事する」、「ご飯を食べる」、「めしを食う」、などはみなイタリア語に「mangiare」に訳されては非日本語母語話者の辞典利用者にあまり役に立たない。BCCWJの利用ソフトの「中納言」だけではその言語位相が指摘されないが、出典の提示と広い文脈の観察でどのような場面、どのようなジャンルで使用されているか見当が付き、辞典に読者用のタグも加えられるのである。

5. 将来の課題と均衡コーパスの進展

コーパス自体よりもその検索ソフトと関係がある課題であるが、品詞のタグをより細かく出来れば共起関係をもっと簡単に、精確に調べることが出来る。たとえば、4. 3. に述べたように移動動詞に係る名詞は品詞としては名詞であるが、その移動が行われる場所を指しているのが特別なステータスの名詞である。すなわち、「場所名詞」に付く「助詞」と一定の「動詞」をソフトで指定することが出来たら、上述の項目について豊富な分析が出来ると思う。今更、この話は無意味かもしれないが、日本語のシンタクスに合ったパラメータも将来的に加えることが可能になればより高度な分析も出来るようになると思う。

なお、辞書編集に携わっている者としては、やはりコーパスのジャンルの均衡を改めて考える必要があるのではないかと思うこともある。というのは見出し語に備える用例をコーパスから抽出する文を探すに当たって、たまにジャンル、内容に偏った例が表れているような気がすることもあるからである。BCCWJのコーパス構築の過程では中立的な原理に基づいているようで、「流通」というサブコーパスの要素も考慮することによって、よく読まれている書籍が選択されてくるのである¹³。

そのせいかもしれないが、場合によって特別なニュアンスもない語彙素を探したらその文章のジャンルが限られてしまう現象が起こるようなのである。例えば、「スポマル」（窄まる）の用例を調べたところ、49件の中25件も性的な描写に関する内容の文が抽出され、特段に道德問題にならないにせよ、辞典には容易に使えるものではないと思う。コーパスの分析を始める以前、特定の意味範囲でも使用されうると想像できる単語（サシイレル、アイブ、ウチマタ、など）の使用の「偏った」例の割合も無視できないものである。コーパスの構築は、客観的な基準に従って行われたが、その類の書籍や内容・テーマが用例上の比重が高いことも興味深いものである。データの母集団の扱い方は中立的で客観的である以上、その結果の内容を価値観で分析して判断することはないが、なぜそのような内容がよく抽出されるか、本当に一般的な読書傾向を反映しているか、または、語彙のレベル

¹³ 前川喜久雄、「特定領域研究『日本語コーパス』のめざすもの」、『日本語コーパス全体会議総括班報告』、2006.9.9, pp. 1-8.

で調べられた単語の代表的な用途を示しているか、と言うような課題が残されている。厳密な意味でのコロケーション・共起関係よりも広義でのコテキストの分析にも役立つものでありながらも、コーパスの代表性の側面にも改めてスポットを浴びせる必要があるのではないかと思う。

コーパス言語学は、計量言語学と違って研究の対象である言語を単なるデータに還元させるものではないとすれば¹⁴、言語使用の「環境」にもその研究範囲を広げること出来ると思う。BCCWJの精細なデータ（出典、著者、サブコーパス、年代など）により、そのような「環境」の分析と記述も可能になると思われる。

最後になるが、大量均衡コーパスとその検索ソフトが出来たため、より精密な言語の分析、言語使用の考察、また豊富な用例のサンプリングも今まで考えられなかったほどの円滑さでできるようになり、海外などで行われている対訳辞典のプロジェクトの進歩を強く支援することになったということをここで証言したい。また、国立国語研究所で KOTONOHA のプロジェクトが完成したら、一層の発展が可能になるものと期待している。

¹⁴ Wolfgang Teubert, “Corpus Linguistics and Lexicography”, *International Journal of Corpus Linguistics*, 6 (Special Issue), 2001, p.129.

付録 『和伊大辞典』見出し語のサンプルと他の対訳辞典との比較

uetsukeru【植え付ける】[w¹etʃu¹ke¹ru] v.t.2 I. ① piantare ㊦ 植木を〜㊦ 道の両側に花の種を植え付けたり、木を植え付けたりして、道を美しくするような仕事を始めた。Sono iniziati i lavori per abbellire la strada mettendo a dimora semi di fiori e piantando alberi ai suoi lati.② inoculare (un virus, battere) 病原菌を〜 inoculare un germe patogeno ㊦ ツツガムシ病原菌を植え付けられた患者の中で死亡している者があつたらしい。Sembra che alcuni pazienti sottoposti all'inoculazione del battere dell'*orientia tsutsugamushi* siano deceduti.II. inculcare; instillare; radicare ㊦ イメージを植え付ける inculcare uno stereotipo, radicare un'immagine ㊦ 彼は息子に友人の失敗をひそかに喜ぶような歪んだ競争心を植えつけた。Ha inculcato al figlio un distorto spirito di competizione tale da farlo godere dei fallimenti degli amici | 自分は自力ではなにもできないという思いを子どもの心に植えつけています。Ha radicato nei figli l'idea che non riescano a far nulla con le proprie forze. | 1972年代の二回の石油危機と、頻発した公害・環境問題とは、人々の心に資源・エネルギーの有限感を植え付けた。Le due crisi petrolifere degli anni '70, e i problemi di danni da inquinamento ambientale, hanno minato nella gente la convinzione dell'illimitatezza delle risorse energetiche.

図1 『和伊大辞典』草稿

うえつける 植え付ける 1 《植える》piantare; 《移植する》trapiantare, mettere a dimora ㊦ 植え付け piantatura㊦; 《移植》trapianto㊦, messa a dimora ㊦ ぶどうを植えつける piantare un terreno a vigna
2 《思想などを》seminare, infondere, inculcare ㊦ 彼は労働者のあいだに不満の種を植えつけた。Ha seminato lo scontento fra i lavoratori.

図2 小学館『和伊中辞典』2008²

うえつける【植え付ける】①①【植物を】plant ㊦ 畑にトマトの苗を植え付けた He *planted* tomato seedlings in the field. ②【病原菌などを】㊦ チフス菌をねずみに植え付ける *inoculate* rats with typhus
②【心に刻み付ける】plant; implant; fix; root (▶ fix, root は受け身で使われることが多い) ㊦ 彼のその日の行動は彼女の心に強い不信の念を植え付けた His conduct that day *planted* [*implanted* / *instilled*] a strong distrust in her heart. / After what he did that day, a strong distrust of him was *rooted* [*fixed*] in her heart.

図3 小学館『プログレッシブ和英中辞典』2009³